

# 地域包括ケア 実践モデル事業

■ 市町村名	: 佐久市
■ 担当部署	: 高齢者福祉課 高齢者支援係
電話番号	: 0267-62-2111 (内線218)
E-mail	: kaigohoken@city.saku.nagano.jp
■ 事業年度	: 平成24～25年度
■ 総事業費	: 5,379,316円
うち国補助金	: 2,643,000円

## モデル事業の名称

地域包括ケア実践モデル事業

## 事業の目的・概要

2025年には、団塊の世代が75歳以上となり高齢化がピークになると言われている。高齢者が、病気になったり介護が必要な状態になっても適切なサービスを利用して、個人の自立とQOLの追求が可能になるよう、医療や介護を通じた個々人の心身状態にふさわしいサービスが切れ目なく提供できるような体制の改革が実現し、「地域包括ケアシステム」が構築されることが必要である。

佐久市においても、高齢者が住み慣れた地域で生活が継続できるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援サービスが切れ目なく提供される「地域ケアシステム」を日常生活圏域ごとに構築するため、以下について実施する。

- ①地域別包括ケア委員会
- ②お出かけリハビリテーションの実施
- ③いきいきサロンの充実
- ④地域包括ケアマップの構築



## 実施内容

### ①地域別包括ケア委員会

地域別包括ケア委員会（生活圏域ごと（5か所）に年2回）を開催。  
日常生活圏域ごとに、地域の特性を考慮した地域包括ケア体制の整備をするため、圏域内における多様な社会資源の把握・分析を行うとともに、地域における解決困難な問題や広域的な課題について検討する。

### ②お出かけリハビリテーションの実施

公民館等身近な場所に専門職を招き、病院等から在宅に戻られた方や地域の高齢者が適切なりハビリを受ける機会を確保する。

（H24年度：37回実施、延参加者650名、H25年度：45回実施、延参加者932名）

### ③いきいきサロンの充実

（H24年度：182回実施、延4,255名参加、H25年度：222回実施、延4,908名参加）

### ④地域包括ケアマップの構築

地域包括ケアマップ構築のため、平成24年度地域別包括ケア委員会等において地域調査を行った結果をシステムに入力し、地域包括ケア構築のためのマップを作成。

## 事業効果

- ・地域別包括ケア委員会：個のケースを通し、地域を見つめることにより、地域の課題を発見し、把握することができた。多職種で話し合うことで、各々の所属する組織の立場から、地域でどのようなことができるのか改めて考える機会となった。委員会を通して、多職種間の横のつながりができ、地域包括ケアシステムの構築のための一つの手段として大変有効であった。
- ・お出かけリハビリテーション：片麻痺の方が手工芸に参加し、作業療法士の指導のもと手工芸を続けたところ、片麻痺の改善がみられた。理学療法士による背骨の運動、下肢のストレッチ、ふくらはぎの体操後、腰痛や膝の痛みが軽くなったとの声が聞かれた。
- ・いきいきサロン：健常者はもちろん要介護者も集い、住民やボランティア等と共に、介護予防等の様々な活動を通じて地域交流を進めた。

## 今後の展開

- ・平成26年度は、生活圏域ごとの住民ニーズ、サービス資源、ケアの質等の課題から、地域住民のネットワークづくりや、施策への反映へとつながるよう、地域別包括ケア委員会を発展させていきたい。
- ・地域包括ケアマップについては、今後、要援護者情報と地図情報をリンクさせるなどの活用方法について検討していきたい。

